

8. 学校評価～中間評価の結果と改善策～

学校教育目標

確かな学力をもち、心豊かでたくましく生きる子の育成 ～自力、全力、底力を發揮して～

① 確かな学びのある学校づくり

- 児童アンケートでは、①の1・2で肯定的な割合が100%で、児童は意欲的に対話しながら学びを深め、自分の考えを発表したり、友達の話を聞いたりしている。
- 教職員アンケートでは、①の1・2・3で肯定的な割合がいずれも100%で、教員はプランの取組に基づいて組織的に授業改善に努め、学力向上を目指している。
- ▲①の3・4について、強肯定の割合が保護者32%、児童36%(①3)・52%(①4)であり、保護者・児童ともに、意欲的に家庭学習に取り組んだり、基礎的な学力の定着を実感したりしている割合が少ない。
- ☆基礎基本の習熟を図ったり、全員が授業での「分かった」を表現できたりすることを大切にしていく。そのために、理解やつまずき等個々の学習状況に応じた手立て(ヒントや発展問題など)を複数準備したり、対話につながる児童が考えたくなる問い合わせをしたりすることで主体的な学びにつなげていく。

② 湿もりのある学校づくり

- 教職員アンケートの項目7「児童が楽しく学校生活をすごせるように指導している。」、保護者アンケートの項目7「お子さんは意欲的に登校していますか。」、児童アンケートの項目7「学校は楽しい。」に対して肯定的意見の割合が高い。
- ▲保護者アンケートの項目8「お子さんに家での役割(手伝い・自分の仕事)をさせていますか。」に対する強肯定の割合が低い。
- ☆ファミリーデーの取り組みを継続する。取り組んだ内容を児童が共有できるようにする。さまざまなお手伝いがあることに児童が気付き、児童自ら「このお手伝いやってみたい」と思えるようにする。

③ 健康な体を育む学校づくり

- 継続的に指導を行っている生活習慣についての項目は全て、肯定的意見の割合が95%以上と高い。
- 安全に関する指導・取組について、強肯定の割合が高い。
- ▲運動については、教職員の強肯定の割合が0%である。震災の影響でグラウンドが使えないということもあり、体力を高める運動に取り組むことが難しい現状である。
- ☆スポーツチャレいしかわに取り組み、ランキングを掲示するなどして、運動への意欲を高める。また、仮設グラウンドができ次第、授業や休み時間等に積極的にグラウンドを活用できるよう計画を立てる。

④ 地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

- 写生大会や太鼓教室の実施、郵便局や漁協の見学(1・2年)、生き物観察会(3・4年)、地域の調査(5・6年)の他、仮設住宅のみなさんに向け、合唱で歌声を届けることができた。
- 150周年記念式典で鼓笛演奏を披露したり、地域の方々の学校に対する思いを感じたりできた。
- ▲まだ地域全体が復旧の途中であり、活動は制限されている。
- ☆祭り等地域の行事、公民館の催し等を周知し、参加を呼び掛ける。

⑤ 教職員のチーム力を活かす学校づくり

- どの項目も100%である。定時退校を守ることや時間外勤務を意識している。
- 共通理解を図りながら、教育活動を行うことができており、組織として行う、という意識が高い。
- ▲退校目標時刻や定時退校日を意識した業務の強肯定が50%なので、意識はしているが実施できているという実感が低い。
- ☆C4THの掲示板や職員室の連絡黒板を使って、マイ定時退校日や定時退校日を意識させ、年間時間外勤務360時間以内を目標とするために、毎月の時間外勤務時間を個々に知らせて改善を促す。